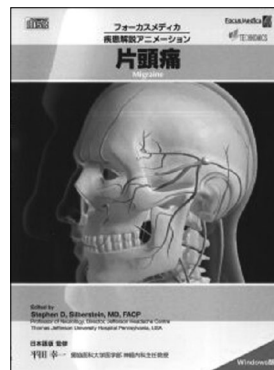


『片頭痛 フォーカスメディカ
疾患解説アニメーション』

学生自身が意味づけできたとき、初めて“教材”となる——
アニメーション学習の薦め

日本語版監修：平田幸一／定価 9,975 円 (CD-ROM 本体 9,500 円 + 税 5%)
発行：テクノミック／TEL：03-3538-2531／http://www.technomics.co.jp



看護教員にとって、授業案の設計において最も頭を悩ませるのが学びの媒体となる教材の選択です。看護学生にとって教材は、わかりやすく、親しみやすく、身近なものとして捉えられ、学生自身が意味づけできたときに初めて教材となります。また、知識というものは立派な人や偉い人たちが作り、自分たちは、ただそれを「観客」として眺め「覚える」のでは決してありません。看護学生自身が自らの方法で作りあげていくものです。残念ながら、生活体験の少ない初学者の看護学生にとって、平面的で文字の羅列である教科書だけでは興味、関心を抱きながら専門的知識を積むことは容易ではありません。看護学生が自ら感じ、考え、知識を発展できるような教材の工夫と教育方法の検討が求められています。看護学生が主体的に、基礎や専門基礎との繋がりを意識でき、かつ看護がイメージできる教材として、このアニメーションは、学びの探究を誘う教材のひとつであると思います。

症状の原因や誘因および治療法までをコンパクトに立体的な映像でわかりやすく解説され、引き込まれるような感じを抱きます。特に、看護学生が理解を困難にしている「解剖学」や「薬理学」などの説明は、立体的な動画により視覚だけではなく、興味を沸き記憶に残りやすくなっています。ただ、看護学生には情報収集力や編集力は十分に

身につけているとはいえないので、このアニメーションの活用時期や方法の検討も必要です。

片頭痛の機序は血管収縮・拡張の関与(神経伝達物質であるセロトニンの役割)や脳神経細胞の活動の異常などが考えられています。その他、誘因となるストレスをはじめ食物・環境・感情・睡眠などの多彩な因子が関与しています。女性に多く、日常生活に支障をきたす症状の1つです。思春期から発症し成人期へと長期に渡る片頭痛は、他人から見れば「たかが頭痛」と理解されにくいこともしばしばですが、頭痛外来が立ち上がるほど深刻な問題となっているのも事実です。教科書では数行でまとめられ、講義では十分に触れられることが少ないのが現状ですが、生活上の困難という視点から、まさに看護の対象となる症状であるといえます(治療の中心はトリプタン製剤を中心とした薬物療法ですが、片頭痛の重症度や頻度および継続時間により使用薬剤は異なります)。片頭痛の誘因となる日常生活の工夫や薬物療法の自己管理への支援は、看護学生のみならず患者や一般の人々にも大変役立つのではないかと思います。このアニメーションは、上手に痛みと折り合いをつけながら日々の生活を、より健康に送れることのお手本となる教材のひとつであると考えます。